

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称				実施主体				
がん検診受診率向上対策				中保健センター				
事業目的		事業内容		活動指標		R4	R5	R6
中区地域計画における「健(検)診受診率向上のための体制整備」をめざし、次のことに取り組む。 ○死亡原因の1位である「がん」についての正しい知識を啓発し、がんに対する理解を促すことで、がん検診の受診率向上につなげる。		○幅広い年齢層への情報発信 ○区が主催するイベントや保健センター他事業に併せて、がん予防啓発、がん検診、講演会などを実施する。		啓発イベントや健康教育の実施回数		①NPOによる講話 1回 ②区民フェスタにて実施 ③乳がん休日検診 1回 ④地域の健康教育 49回	①講演とイベント 2回 ②区民フェスタにて実施 ③乳がん休日検診 1回 ④地域の健康教育 63回	①NPOによる講話 3回 ②区民フェスタにて実施 ③日曜がん検診 1回 ④地域の健康教育 52回
				啓発イベントや健康教育の参加人数		①39人 ②117人(肺がん検診) ③39人 ④1483人	①19人・65人 ②82人(肺がん検診) ③61人 ④1455人	①25人 ②105人(肺がん検診) 25人(乳がん検診) ③74人(乳がん・子宮頸がん) ④1313人
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性		
○	「がん」は日本人の死亡原因の第1位であり、堺市中区の死亡原因第1位でもある。 がん検診受診率を向上させることで、健康寿命の延伸につなげることができる。また、日曜日にがん検診を実施する施設が少なく、ニーズは高いと考えられるため、本事業を実施することは妥当である。	○	乳がん好発年齢層の子育て世代の保護者をターゲットにし、子育てサークル参加者に対して啓発を実施した。その際、NPOとの連携により乳がんの体験談の講話を通して、より身近に感じてもらえるよう啓発活動ができた。	◎	区民フェスタで肺がん・乳がん検診を実施することで、多くの区民に周知する機会を持つことができた。そこで、1月実施の日曜乳がん・子宮頸がん検診を勧奨することで、関心をもった区民から多くの申込者があった。日曜日に集団検診を実施することで平日では参加しにくい区民へ呼びかけることができた。	○	区内で、休日にかん検診を実施している施設は少なく、事業の実施日を日曜日に設定することで、平日の事業に参加できない、がんの好発年齢である年齢層の参加が期待できる。	
⑤自立発展性		総合評価						
－	がんについての正しい知識の普及や、受診しやすい環境整備は、住民の健康を守る上で重要であり、地域の実情に即して実施することが必要であるため、区が主体的に行う必要があり、検証にふさわしくない。	○	○区民フェスタ時の啓発により、幅広い年齢層の参加につながった。 ○今年初めて区民フェスタで乳がん検診を実施したところ、当日受診希望をされる区民が多くいた。来年度は工夫が必要。 ○日曜乳がん検診は、前年度よりも予約人数が多く、また初めて子宮頸がん検診を実施することができた。 ○がん検診を受けた方に、今後も定期的に、がん検診や特定健康診査等を受ける習慣がつくような働きかけが必要である。また、精密検査対象となった区民で未受診者に受診勧奨を実施。					
今後の方向性（課題、改善提案等）								
拡充 継続 見直し 廃止		区民が、自分自身の健康管理についての関心を高め、がん検診受診率向上に向けた工夫（啓発や検診を受けやすい環境整備）を行う。 今後、機会を逃さず、工夫しながら啓発を行い、啓発イベント時には、個別にかん検診の情報を提供し、受診勧奨を行う。 また、令和7年度は日曜がん検診として、乳がん検診、子宮頸がん検診、肺がん検診を実施し、がん検診受診のきっかけとなる機会を確保していく。						